

日本図学会大会学術講演論文集執筆要領 —タイトルは14pt, ゴシック体, 左寄せ—

図学 一郎 Ichiro ZUGAKU ←著者名は10pt, ゴシック体, 左寄せ

図学 二郎 Jiro ZUGAKU ←姓と名の間には半角スペースを入れる. 和文と英文(姓はすべて大文字)で表記する

概要: 以下は2段組みとする. 講演発表の概要は150字以上400字以内, 作品展示の概要は100字程度. 冒頭の「概要:」の文字は10pt, ゴシック体とする. 概要の本文は10pt, 明朝体とする. 概要の中では参考文献を引用しないこと. 概要に続いて, 3~7語のキーワードを記述する. 先頭のキーワードは本学会が定める以下の基本分類キーワードからひとつを選択する.

図学論/設計論/造形論/平面幾何学/空間幾何学/応用幾何学/形態構成/CG/形状処理/画像処理/CAD・CADD/図学教育/設計・製図教育/造形教育/教育評価/空間認識/図学史

2つ目以降はそれぞれのキーワードを全角のスラッシュ(/)で区切る. 冒頭の「キーワード:」の文字は10pt, ゴシック体. キーワードの語句は10pt, 明朝体とする.

キーワード: 図学論/執筆要領/概要/キーワード

1. はじめに

講演論文集に掲載される論文は, その内容が学術的であることに留意すると共に, その書式が執筆要領に適合していることが求められる. また, 内容については, 著者が全責任を負わなければならない. このファイルは講演論文執筆のためのテンプレートともなっている^註.

2. 原稿の構成と書式

提出原稿は, 文章と図・表を組み合わせたPDF形式のファイルとする. A4サイズを縦位置で使用し, 余白は上下左右に20mmをとる. 本文は10ptで横書きとする.

2.1. ページの基本構成

講演発表の原稿は, 2ページ以上6ページ以内の偶数ページ, 作品展示の原稿は, 見開き2ページとする. 1ページ目上部のタイトル, 著者名, 左段上部の概要とキーワードに続いて, 本文, 注, 参考文献を記述する. 最終ページ右段下部に著者紹介を記載する. ページ番号は表記しない.

2.2. タイトル

簡潔に, しかも内容を具体的に表現する単語を入れて48字以内で記述する. タイトルに英字を用いる場合は, 半角で表記する. 同じ著者による内容が近接する論文の場合は共通の表題に番号を振り, 各々の論文の違いを具体的に

示す副題をつける. 副題の前後にはダッシュ(全角)を付し, 原則として48字以内とする.

例:

中・近世イタリアにおける遠近法(1) —初期ルネサンス様式における遠近法—

中・近世イタリアにおける遠近法(2) —マニエリスムにおける遠近法—

2.3. 著者名

主たる著者を先頭に記す. 研究の全体にわたって内容を理解し責任を負える立場の者が連名者になる. その他の協力者については, 謝辞として本文末尾に記載する. 所属・肩書は記載しない. 1行に1名を記述する. 著者名が4名を超える場合は1行あたり3名を記述し, 以降はその下段に記す.

2.4. 概要

内容を短く要約したものを, 講演発表は150字以上400字以内, 作品展示は100字程度で簡潔に記述する.

2.5. キーワード

概要の最終行にキーワードを記述する.

2.6. 本文

本文は, 見出し, 図版, 表, 最終ページの著者紹介などのスペースを考慮し, 余裕をもっておさまるようにすること. 本文の文章記述は明朝体とする.

文字数の目安は以下の通り.

1ページ目: 約875字(約25字詰め×約35行)

2ページ以後: 約2200字(約25字×約44行×2段)

段落のはじめは字下げする.

2.6.1. 節・小節・項

節・小節・項には通し番号とタイトルによる見出しを設ける. 本文は見出しを改行してから書き始める. 見出しのフォントは10pt, ゴシック体とする.

a. 節の見出し

節(大見出し)は前の文章から1行あけ, 半角アラビア数字+半角ピリオド(.)+半角スペースに続けて節タイトルを記す.

b. 小節・項の見出し

小節(中見出し)・項(小見出し)は前の文章から行をあけずに記述する. 小節・項のナンバーは, 「1. 1. 1.」というよう

に、半角アラビア数字+ピリオド(.)によって節などとの関係を含めて表記し、半角スペースに続けて小節タイトル・項タイトルを記す。

c. 項を更に細分する場合

項を更に細分する場合には、小文字アルファベット a, b, ... を用い、小文字アルファベット+ピリオド(.)+半角スペースの後に細目タイトルをつける。

d. さらに細分する場合

さらに項目を細分する場合は、著者の判断で分類する。

2.6.2. 見出しが長くて折り返しが必要となる場合の節・小節・項の見出し

節・小節・項等の見出しはできる限り1行で表記する。やむをえず折り返しが必要となる場合は、通し番号+半角スペースだけ字送りをする。

2.6.3. 謝辞

謝辞は、見出しをつけずに、最終節の末尾(結論など)から一行あけて書く。

2.7. 図・表・写真

論文の内容を的確に伝えるために必要なものを載せる。また、文章中に簡潔に内容を説明する。なお、他人の図表を転載する場合には、必ずその旨明示するとともに、著作権にかかわるものを使用する際は著者の責任をもって事前に処理する。

2.7.1. 仕上がり

図や写真は白黒とする。やむを得ずカラーの原稿を投稿する場合は、著者自身が白黒印刷での仕上がりを点検しておく。図表の中の文字は原則として高さ2mm以上、仕上がりの線の太さは0.1mm以上とする。

2.7.2. キャプション(通し番号)

図・表には各々に独立した通し番号を「図1」、「表2」のように付し、それに続けてタイトルを表記する。

写真は図として扱い、「写真1」ではなく「図1」のように通し番号を表記する。通し番号の後ろには「.」をつけないようにする。

キャプションは左揃え、10pt、ゴシック体で表記する。キャプション内に簡易な説明を付加する場合は、10pt、明朝体で表記する。

図のキャプションは図の下部に、表のキャプションは表の上部に表記する。

2.7.3. レイアウト

本文中に図表をレイアウトする。図表の幅が段におさまらない場合は、図表部分のみ1段組みにする。キャプションを含む図表の上下と本文の間には空行を1行設ける。

図1と表1は図表の例である。



図1 日本図学会ロゴ (1995年制作. デザイン:佐々木仁)

表1 文字数

	段数	文字数	行数	字数
1 ページ	1	25	35	875
2 ページ以降	2	25	44	2200

2.8. 注

2.8.1. 文章中の記号

本文中の注を付す箇所に、注1、注2のように使用順に通し番号を付けた記号を上付き文字を用いて表記する^{注2}。

2.8.2. 注の列記

本文の最終行に空行を挿入し、次の行に「注」の見出しを10pt、ゴシック体で表記する。注の説明文はその下行から、記号を行頭につけて列記する。注の説明文は10pt、明朝体で表記する。

2.9. 参考文献

参照・援用したデータや考えなどが、他の文献から得たものである場合は、出典を明記しなければならない。

2.9.1. 文章中の参照

本文中では参照箇所の右肩に[1]、[2]～[6]のように、参照した順に角括弧ではさんだ通し番号をつける。

2.9.2. 参考文献の列記

先に列記した注の最終行に空行を挿入し、次の行に「参考文献」の見出しを10pt、ゴシック体で表記する。参考文献はその下行から、記号を行頭につけて列記する。参考文献は10pt、字体は、和文は明朝体、英文はセリフ体(Times New Roman等)で表記する。著者名が欧文の著者は姓、名(頭文字)の順に記す。また、欧文の誌名・書名はイタリック体(斜体)で表記する。

2.9.3. 記載の形式

a. 論文の場合

著者名、「表題」、誌名、巻・号(発行年)、頁の順に記述する^{[1]～[2]}。

b. 単行本の場合

著(編)者名、書名、発行所名(発行年)の順に記述する^{[3]～[4]}。

c. その他:単行本掲載論文

著者、「表題」、単行本の編者、書名、出版社(発行年)、頁の順に記述する^{[5]～[6]}。

d. ウェブサイト, ウェブページ, ブログ

「科学技術情報流通技術基準(SIST)電子文献参照の書き方」^[7]にしたがい、著者名, “ウェブページの題名”, ウェブサイトの名称, 更新日付, 入手先, (入手日付)の順に記述する。

2.10. 著者紹介

最終ページ右段の最下部に「著者紹介」の見出しを10pt, ゴシック体で表記し, 次の行から著者名の読み(ひらがなで1行分), 所属, 連絡先(Email, 住所)などを, 1名につき100字以内, 10pt, 明朝体で記す。

3. 表記

3.1. 文体

文章は原則として日本語の口語体を用い, 欧文または片仮名書きを必要とする部分以外は漢字まじり平仮名書きとする。

3.2. 句読点と括弧類

文章中の句読点は, ピリオド(.), カンマ(,), として。ピリオド, カンマ, 中点(・), コロン(:), および各種括弧などはそれぞれ全角1文字分用いる。

3.3. 外国語

外国の地名, 人名などの固有名詞は原文表示とするが, 一般化されているものは片仮名でよい。

3.4. 用語

原則として文部科学省編「学術用語集」, 「JIS 用語集」, 日本図学会編「図学用語辞典」^[6]などに従う。特殊用語などには注をつけること。

3.5. 数字, 年号

数量を表すとき, あるいは序数的表現の時は半角アラビア数字を用いる(例: 0.5mm, 図1)。

年号は西暦による表記を原則とし, 半角アラビア数字を用いる(例: 2001年)。

漢字と結合して名称や概数を表すときは漢数字を用いる(例: 三角形, 数百の)。

3.6. 数式

文章と同じ行中にある場合は, 1行におさまるように書く。

例: $1/2$, $(x+a)/(y+b)$, $x^{1/2}$

別行に示す場合には, 原則として1段の幅におさめ, 各式の行の右端には両括弧のアラビア数字で通し番号をつけ, 文中で引用する場合には, 式(1)のように書く。

例: さて, 考えている楕円面を,

$$z = z_1 \quad (|z_1| < c) \quad (1)$$

で切れば, その切口は, …

3.7. 単位

原則として国際単位系(SI)に従い, 単位に括弧はつけ

ない。

3.8. 字体, 記号, まぎらわしい文字

用語, 単位記号, 演算記号, 数字などはローマン体(正体)とし, 量記号, 数式などはイタリック体(斜体)にする。

数学記号はJIS Z8201, 量および単位を表す記号はJIS Z8202に従う。

4. 原稿提出手続き

4.1. 関係情報の入手

提出原稿に関する情報は, 発表申し込み時にプログラム委員会から著者に電子メールにて送付される。送付されない場合, 不明な場合は, 大会実行委員会へ連絡すること。

また, 本学会ホームページにも, 随時, 情報を掲載する。

日本図学会ホームページ:

<http://www.graphicscience.jp/>

4.2. 提出

原稿の提出は, 原則としてPDF形式の原稿を指定のWebページにアップロードすることで行う。アップロードの際には, 論文ID, 連絡担当者氏名, メールアドレスを入力する。アップロード用Webページと論文IDは申し込みの受理メールに記載してあるものを用いる。

印刷の仕上がりが白黒となることから, アップロードするファイルは, 原則として白黒原稿とする。やむを得ずカラーの図版等を含む場合は, 著者自身が白黒コピー等により印刷時の仕上がりをチェックし, 仕上がりに責任をもつこと。

4.3. 著作権に関する規定について

本学会は「講演論文の著作権に関する規定」(2013年12月20日理事会承認)を定めている。投稿者は以下の規定に同意の上, 原稿を提出(アップロード)すること。

講演論文の著作権に関する規定

第1条 講演論文集に関する一切の著作権(日本国著作権法第21条から第28条までに規定するすべての権利を含む。)は本学会に帰属する。

第2条 特別な事情により前項の原則が適用できない場合は著者と本学会との間で協議のうえ措置する。

第3条 著者が著者自身の講演論文を複写・翻訳・学術論文誌への投稿などの形で利用することに対し, 本学会はこれに異議申立て, もしくは妨げることをしない。

5. 掲載まで

5.1. 原稿受領連絡

原稿到着後, プログラム委員会より, 正式な受領通知がメールにより連絡担当者宛に送られる。7日以内に受領通知が届かない場合は, プログラム委員会に連絡されたい。

表2 チェック項目

	チェック項目	詳細
<input type="checkbox"/>	頁数	6ページ以内の偶数ページか. 6ページを超えている場合は要修正.
<input type="checkbox"/>	著作権	他人の図表を転載する場合, その旨明示するとともに, 著作権にかかわるもの使用に際しては, 著者の責任をもって著作権が事前に処理されているか.
<input type="checkbox"/>	余白	用紙余白が上下左右20mmになっているか. 20mm未満(余白が狭い)は要修正.
<input type="checkbox"/>	段組中央の間隔	本文左側段と右側段の間隔(用紙中央)は10mm程度か. 左右の段が極端に狭い場合は要修正.
<input type="checkbox"/>	図表のレイアウト	余白部にはみ出ている図表は要修正. 左右段からはみ出ている図表は段の中に納めるか, 図表部分のみ1段組みにする. 複数の図のサイズが統一されずにちぐはぐに配置されている場合は要修正.
<input type="checkbox"/>	表題	左寄せ・ゴシック体になっているか. 中央揃え・明朝体の場合は要修正. 文字サイズ本文と同サイズの場合は要修正.
<input type="checkbox"/>	氏名	和文 英文の両方が表記されているか. 所属が表記されていないか(所属が表記されていたら削除必須). 英文の表記は姓が大文字表記になっているか(大文字・小文字混在なら要修正).
<input type="checkbox"/>	概要	概要の文字数は適切か. 極端に短い場合, 極端に長い(半ページに渡るなどの)場合は要修正. 概要中に参考文献を引用していないか. 参考文献の番号を付記している場合は要修正.
<input type="checkbox"/>	キーワード	第一キーワードは基本分類から選択されているか. 任意キーワードが第一キーワードになっていた場合は要修正. キーワードのセパレーターは全角スラッシュになっているか. カンマ等になっていた場合は要修正.
<input type="checkbox"/>	本文	各段落は字送り(1文字分)されているか.
<input type="checkbox"/>	節・小節・項の番号	節・小節・項の番号はピリオドで区切られているか. ハイフンの場合は要修正.
<input type="checkbox"/>	謝辞	見出しを用いないで結論末尾に付記されているか. 謝辞が見出し付きで独立していたら要修正.
<input type="checkbox"/>	引用・注・参考文献	本文中での記号の形式は適切か. 著しい逸脱は要修正.
<input type="checkbox"/>	著者紹介	著者紹介は最終ページの右段下部に書かれているか.

5.2. 原稿の差し戻し

原稿の書式に不備のある場合は, 原則として著者に差し戻し, 修正後に再提出となる. 修正の期日を過ぎても再提出が無き場合は, 論文を掲載しないことがある.

5.3. 原稿の返却

提出された原稿は原則として返却しない.

5.4. 原稿掲載料

論文集の印刷・製本費用の一部として発表原稿1編につき 講演発表は5,000円, 作品展示は3,000円の負担が必要となる.

6. おわりに

提出の前に, 表2のチェック項目を確認すること.

謝辞は最終節の末尾から一行あけて書く. 見出しはつけない.

この執筆要領は, 学会誌「図学研究」の執筆要領の改訂に合わせて, 内容の一部を修正して改訂したものです. これまでに執筆要領を作成し, 修正を加えてきてくださった関係者の皆様に謝意を表します.

注

注1 2014年7月15日改訂.

注2 参照箇所の上肩(上付き)に注+通し番号を書く.

参考文献

- [1] 鈴木学, “透視図に関する研究”, 図学研究, 32.2 (1983), 1-6.
- [2] Kajiyama, K., “Design of Computer Assisted Learning System for Reading a Drawing”, *Proc. 6th ICGG (1994)*, 267-271.
- [3] 小山清男, 幻影としての空間, 東信堂 (1996).
- [4] Klotz, H., *20th Century Architecture*, Rizzoli (1989).
- [5] Evance, R., “Architectural Projection”, Blau, E. and Kaufman, E. (eds.), *Architecture and Its Image*, Canadian Center for Architecture (1989), 18-35.
- [6] 日本図学会編, “図学用語辞典”, 森北出版株式会社, (2009).
- [7] 独立行政法人科学技術振興機構(JST), “科学技術情報流通技術基準(SIST)電子文献参照の書き方”, <http://sti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST02-2007.pdf>, (参照 2013-11-27).

著者紹介

ずがく いちろう : 図学大学図法学部幾何学科,
〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1,
ichiro-zugaku@hogehoge.ac.jp

ずがく じろう : 日本図学会企画広報委員会,
〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1